

全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究に係る  
成果報告会における事例発表（参考資料）

○学力向上支援サイクル	-----	1
○学力向上推進計画の進捗状況（中間総括票）	-----	2
○大分県並びに3市教育委員会のAction	-----	3
○津久見市版 算数・数学授業モデル	-----	5
○「うさっ子」家庭教育のすすめ	-----	7
○豊後高田市教育ビジョン	-----	9

大分県教育委員会

# 学力向上支援サイクル

市町村学力向上推進計画の策定・公表

## Plan

アクションプラン推進協議会(1/31)

市町村学校教育主管課長会議(1/14)

- 1 委託先津久見市の取組
- 2 平成23年度の学力向上対策

## Do

3月

4月

全国学力・学習状況調査  
基礎・基本の定着状況調査  
(4月20日(火)実施)  
市町村独自の学力調査等

## (Research)

効果測定(アンケート実施)

## Action

11月

★学力向上支援システムHPアップ

学力向上対策先進地研修Ⅱ参加者の授業公開

学力向上対策先進地研修Ⅱ(5月)  
(秋田県教育専門監(ST)制度視察)

★学力向上ステップアップ事業

市町村学校教育主管課長会議(8/6)

## Check

10月

各種調査結果(分析)の公表(9~10月)

アクションプラン推進協議会(10/28)

市町村学校教育主管課長会議(10/26)

- 1 平成21年度学力向上推進計画の達成状況総括
- 2 平成22年度学力向上推進計画の進捗状況点検・改善
- 3 平成23年度学力向上推進計画の骨子提案(プロポーザル)

・学校公開の促進  
・校長等による授業観察及び指導の日常化  
・学びの教室等地域人材の活用  
・学力向上支援教員の活用

# 学力向上推進計画の進捗状況(中間総括票)

ビジョン目標 子どもたちが夢に挑戦し自己実現できるよう、一人ひとりの学び意欲や習熟の度合いに応じて着実に学力を伸ばし、全体としても3年以内に小・中学校とも学力テストの正答率を九州トップレベルに向上させます。

キーワードは「点から面へ」、「徹底」

( )教育委員会

## Research 全国学力・学習状況調査等

1 平成21年度 全国学力・学習状況調査について (平均正答率)

教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村								
大分県	69.4	48.1	78.7	51.8	76.8	73.9	61.4	53.9
全国	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9

2 平成21年度 基礎・基本の定着状況調査について (偏差値・平均正答率)

教科	小5・国		小5・算		中2・国		中2・数	
	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用
偏差値								
県偏差値	49.3		49.8		49.3		49.6	
正答率								
大分県	72.5	57.7	80.8	67.9	67.8	52.1	63.6	53.8
全国	73.9	58.5	81.5	67.6	69.0	53.5	64.4	56.1

3 平成22年度 全国学力・学習状況調査について (平均正答率)

教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
抽出調査								
受検者数								
希望利用								
受検者数								
全体								
大分県	81.4-82.8	75.3-77.2	72.3-74.3	47.1-48.9	73.8-75.1	63.0-64.9	61.5-63.4	40.0-42.2
全国	83.2-83.5	77.7-78.0	74.0-74.4	49.1-49.5	75.0-75.2	65.1-65.5	64.4-64.8	43.1-43.5

※記載可能箇所のみ  
※希望利用調査の集計方法

4 平成22年度 基礎・基本の定着状況調査について (偏差値・平均正答率)

教科	小5・国		小5・算		中2・国		中2・数	
	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用	基礎	応用
偏差値								
県偏差値	49.4		49.7		49.3		50.2	
正答率								
大分県	73.3	42.7	80.3	66.5	76.9	53.7	69.5	61.8
達成率								
大分県	61.4	42.7	65.9	63.2	69.6	47.9	59.8	56.6

※1~4には入力セルに条件を付け(定められた値を超えた場合は「赤字(赤地)」に強調)

## Assess 平成21年度「推進計画」総括 学力の改善状況

成果(効果的な学力向上の取組)※Checkへ  
【教育委員会の具体的な取組】

【学校の具体的な取組】

## Plan+Do 平成22年度「推進計画」骨子

【当初の課題】

【目標(数値目標)】

【戦略】

【具体的な取組】

1 学力向上支援教員の活用

2 学力向上ステップアップ講座

3 その他

(1)校長の授業観察(1学期実績)

	小学校	中学校	校
ほぼ毎日(在校日はほぼ毎日)			校
週2・3日程度			校
月に数日程度(週に1回程度)			校
ほとんど行っていない			校
指導された小学校教員数			人
指導された中学校教員数			人

(2)互見授業の実施(1学期実績)

小学校互見授業実施教員数		人
小学校教員数		人
中学校互見授業実施教員数		人
中学校教員数		人

(3)指導主事の学校訪問(1学期実績)

	計画回数	校
計画訪問		校
訪問者数		人
要請訪問		校
訪問者数		人
要請訪問(学力向上会議)		校
訪問者数		人
訪問者数		人
総学校訪問		校
訪問者数		人

(4)授業力向上に係る研修の実績

## Check 現時点での課題や今後の改善点

※修正された当初の課題+新たな課題

## Action さらなる取組(次年度に向け)

※平成23年度「推進計画」の骨子(案)

【戦略】

【具体的な取組】

1 学力向上支援教員の活用

2 学力向上ステップアップ講座  
※改善点を特記(管内小学校に対する支援及び指導)

3 その他

## Propose 県教育委員会への提案

# 大分県教育委員会のAction

## 1 学力等の状況及び課題

平成22年度 全国学力・学習状況調査結果の概要  
 ○小学校国語A・B、算数A・B、中学校国語A・B、数学A・B、全てで「全国平均」を下回る。  
 ○低学力層の児童生徒が「全国平均」より2～3ポイント多い。  
 ※参加態勢 抽出されなかった小・中学校も希望利用方式で参加し、全小・中学校が参加。  
 ※採点集計 設置管理者の責任で実施。

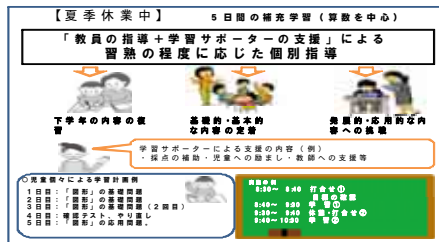
- (1) 全体的な学力向上対策
- (2) 算数・数学の授業改善の促進

### Support System

大分県の目標 (H19学校改善支援プラン)  
 全国平均の学力水準を確保する。  
 地域間の学力定着状況の差異を解消する。

## 2 主な取組

### (1) 学力向上ステップアップ事業



達成状況	指標	現況 (H22.4)	目標	達成状況 (H22.12)
○算数好きの児童		67.4%	→ 80%以上	→ 80.2%
○保護者の満足度		—	90%以上	→ 92.4%

### (2) 学力向上支援システム

各学校や市町村教育委員会において、日常の学習指導や教育施策の改善・充実に生かすため全国学力・学習状況調査の算数科・数学科のB問題をまとめ、活用できるようにした。また、各年度の「全国学力・学習状況調査の解説資料」をもとに、カテゴリー別にまとめ、教師用には正答例もつけた。



【問い合わせ先】大分県教育庁義務教育課学力向上支援班 Tel.097-506-5519

# 津久見市教育委員会のAction

## 1 学力等の状況及び課題

平成22年度 全国学力・学習状況調査結果の概要  
 ○小学校国語A・B、算数A・B、中学校国語A・B、数学A・B、全てで「全国平均」を下回る。  
 ○小・中学校とも、国語に比べ算数・数学の方が「全国平均」との差が大きい。  
 ※参加態勢 抽出されなかった小・中学校も希望利用方式で参加。  
 ※採点集計 希望利用方式の参加校分は教育委員会事務局で採点集計。後に、抽出校分と合算。

- (1) 地域的な学力差の解消に向けた教職員の意識改革
- (2) 算数・数学の授業改善の促進

### Speed

津久見市の目標 (H22学力向上推進計画)  
 全国学力・学習状況調査において、3年後に全国平均を上回る。

## 2 主な取組

### (1) 津久見市学力向上対策研修会の実施

**ねらい** 地域的な学力差の解消に向け、管内の学力の状況を確認し合ったり、有識者等の講義を聴講したりして、学力向上に係る教職員の意識を高める。

**対象** 津久見市全教職員（校長・教頭・教諭・臨時講師）

**内容**

- 第1回目「津久見市学力向上推進計画」（市教育委員会）  
 「学力調査結果の分析と対策」（市教育委員会）  
 「ワンステップ上の学力向上の取り組み」（県教育委員会）
- 第2回目「今、子どもたちに育てたい学力とは～言語活動の充実への課題～」  
 （大分大学教育福祉科学部 教授）
- 第3回目「授業で大切にしたいこと」  
 （連携校学力向上支援教員2名）

(大学教授の講義)

### (2) 指導資料「津久見市版 算数・数学授業モデル」の作成・活用

**目的** 基礎・基本の確実な習得を図る算数・数学科授業モデルを策定し、授業改善に生かす。

**原案作成** 連携校学力向上支援教員・研究主任代表・市教育委員会課長及び指導主事（計10名）

- ①PTによる原案作成（4月～5月）
- ②市算数及び数学会員に対するモデル案の説明（5月）

**検証** ①学力向上支援教員による公開授業（月1回）  
 対象 市内全小学校教員・全数学科担当

②大分大学 川寄道広教授による指導・助言（年2回）

**周知** ①学力向上支援教員による他校指導（月2回）  
 対象小4～6年担当教員・市内全数学科担当

②学力向上支援教員による自校（連携校）指導（TT）

③「津久見市版算数・数学授業モデル クリアファイル」を市内全教職員に配付

(検証授業の様子)

【問い合わせ先】津久見市教育委員会学校教育課 Tel.0972-82-9526

## 宇佐市教育委員会のAction

### 1 学力等の状況及び課題

平成22年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

○小学校は国語A・B、算数A・B、全てで「全国平均」を上回る。

○中学校は国語A・B、数学A・B、全てで「全国平均」を下回る。

※参加態勢 抽出されなかった小・中学校も希望利用方式で参加。

※採点集計 希望利用方式の参加校分は業者に委託し採点集計。後に、抽出校分と合算。

(1) 小・中学校の円滑な接続及び中学校における学校改善の促進

(2) 保護者の理解を得て、特に生徒が意欲的に家庭学習に取り組む環境づくり

#### Cooperation

宇佐市の目標 (H22学力向上推進計画)

全国学力・学習状況調査等各種学力調査で目標値を設定する。

(中学校は全国平均を超えることが当面の目標)

### 2 主な取組

(1) 学力向上・授業力アップ推進支援チームによる小・中学校に対する支援

**ねらい** 市全体の学力向上・授業力アップに係る取組を協議・提案する。  
**メンバー** 連携校校長及び学力向上支援教員6名、市教育委員会4名の計10名  
**取組内容** ①授業力向上研修会、教務主任研修会等の企画検討  
 ②市学力向上推進計画の策定、進捗状況の把握  
 ③全国学力・学習状況調査結果の分析、考察  
 ④校内研究会、学力向上会議での指導助言 等

#### 大学教授の招聘

- ①全国学力・学習状況調査結果の分析・考察及び市学力向上推進計画に対する評価等に意見を求めた。
- ②授業力向上研修会で授業改善に係る助言を受けた。
- ③校長研修会で学力向上施策の講義を依頼した。



(校長研修会での大学教授の講義)

(2) 児童生徒用家庭学習の手引きの作成・活用

**市の課題** ①テレビの視聴時間が県・全国に比べて長い。  
 ②家庭学習時間が県・全国に比べて短い。  
**作成のねらい** ①宇佐市版の手引き作りを通して、市の課題を教務主任間で共有  
 ②自校の手引き作りを推進し、家庭学習のあり方を再確認  
**作成方法** ①教務主任会で原案作成  
 「家庭教育のすすめ」(保護者向け)  
 「家庭学習のすすめ」(児童生徒向け)  
 ②校長会で検討  
 ③市PTA役員会で検討  
 ④教務主任会で活用方法を検討



(教務主任会での原案作成の様様)

〔問い合わせ先〕 宇佐市教育委員会学校教育課 Tel.0978-32-1111 (内線678)

## 豊後高田市教育委員会のAction

### 1 学力等の状況及び課題

平成22年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

○小学校国語A・B、算数A・B、中学校国語A・B、数学A・B、全てで「全国平均」を上回る。

○小・中学校とも、算数・数学のB問題に課題。

※参加態勢 抽出されなかった小・中学校も希望利用方式で参加。

※採点集計 抽出校分と希望利用校分を合わせ業者に一括委託し、採点集計。

(1) 知識の定着や、その活用状況を点検した授業改善の促進

(2) 地域・保護者の理解を得て、全児童生徒が意欲的に学習に取り組む教育環境づくり

#### General Management

豊後高田市の目標 (H22学力向上推進計画)

全国学力・学習状況調査における各問題の目標値を設定し、それを上回る。

### 2 主な取組

(1) 「読解力」「数学的な考え方」等の定着状況を把握するフォローアップシートの作成・活用

**ねらい** 本市の児童生徒、習得した知識や技能を土台とした「読解力」「数学的な考え方」等の「活用力」に課題がみられることから、補充シートを作成し、授業での活用を図る。  
**作成・活用** ①フォローアップワークシート作成委員会(連携校学力向上支援教員参加)  
 ②児童生徒の実態把握(学力調査による分析、弱点の洗いだし、参考図書(分析)  
 ③作成・編集(問題用紙・解答用紙・解答編の3部構成  
 各教科に分かれて問題作成)  
 ④校長会提案(作成及び活用の趣旨説明)  
 ⑤活用(各学校小6、中3全員に配布)  
 ⑥検証(連携校を中心に個に応じた指導及び知識技能を活用する授業で効果検証)



(連携校での活用)

(2) 「教育のまち豊後高田市教育ビジョン」の作成・活用

**趣旨** 全国学力・学習状況調査の目的や結果分析、それを踏まえた授業改善策や基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を定着させるための具体的な方策を、保護者や地域住民に周知するため。  
**作成** ①学校づくり未来プロジェクト会議(連携校学力向上支援教員参加)  
 ②内容検討  
 ・学校、家庭、地域、行政のネットワークづくり  
 ・子どもの居場所づくり  
 ・主体的な学びを支える環境づくり  
 ・のぞましい家庭習慣づくり  
**活用** ①各家庭に配布するとともに、学校説明会や学年・学級懇談会で活用方法を周知  
 ②市立図書館や公民館に設置、ケーブルテレビネットワークで地域に周知



(学校づくり未来プロジェクト会議)

〔問い合わせ先〕 豊後高田市教育委員会学校教育課 Tel.0978-53-5112



# 津久見市版 算数・数学授業モデル

基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざして

過程		内容		教師の動き		留意点	
事前		<p>① つけるべき力を確認する</p> <p>② 本単元に関する実態把握をする</p>		<p>① 本学年で、何がどこまでできればよいかをつかむ。</p> <p>② 各観点別評価規準を作成し、評価計画を立てる。</p> <p>③ 使用する教材・教具を検討・吟味する。</p> <p>④ プレテストによりつまずきを把握する。</p> <p>⑤ つまずき解消のために家庭学習と事前指導を行う。</p>		<p>① 学習指導要領「解説」</p> <p>② 「評価規準作成のための資料」</p> <p>③ 「指導書」を参照</p> <p>④ 単元前（下学年の系列内容）補助教材の使用を検討</p>	
導入		<p>① 本時の学習内容・めあてを理解させる</p> <p>② 本時の主眼に迫る課題（主発問）を立てる</p>		<p>① 学習の姿勢をつくる。</p> <p>① 問題の提示（プレート・枠・色・位置）。</p> <p>① 興味・関心・意欲を高める提示の工夫をする。</p> <p>① どんな問題か意味をつかませる。</p> <p>② 問題を解決するために、何について考えればよいかをはっきりさせる（プレート・枠・色・位置）。</p> <p>② まとめのキーワードを導く言葉で課題を立てる。</p>		<p>・姿勢・用具の指導</p> <p>・問題解決的な提示（生活や経験とつなぐ・実物等）</p> <p>・板書と同時に書くノート指導（枠・色・定規・位置）</p> <p>・簡潔に示す</p> <p>・学習物（模造紙等）を掲示</p> <p>・全員が取り組めるようにする（個別・全体指導・教え合い）</p> <p>・他のクラスや次年度に使い回す機の配置・タイマーの利用</p> <p>・ワークシート・ホワイトボード</p> <p>・考えた跡を消さない指導</p> <p>・終わった場合の事前指示</p> <p>・つまずきの支援方法の判断（個別・全体指導・教え合い）</p> <p>・ペア・班・全体で比較検討</p> <p>・5W1Hの内容</p> <p>・目的、テーマ、係（進行・記録、タイマー、進行シナリオ等）</p> <p>・「はかせ」(速く簡単に正確に)と「既習事項を生かした考え方」を基準に</p> <p>・それぞれの考え方の特徴の提示</p> <p>・述べ方指導「まず、次に、最後に、だから」</p>	
展開		<p>③ どうやって考えればいいのか見通しを立てさせる</p> <p>④ 自分の力で問題を考えさせる</p> <p>⑤ 考えたことを発表させ、違いやよさを話し合わせる</p>		<p>③ 既習事項を思い起こさせ、活用させる。</p> <p>③ 表現方法を示唆する（絵・図・表・グラフ・式）</p> <p>③ 見通しを立てるのに困っていないか観察・指導。</p> <p>④ 具体的な操作活動の教具を準備。</p> <p>④ 考える時間の確保。</p> <p>④ 考えたことを書き留める工夫。</p> <p>④ 机間指導で子どもの考え方を見取り、出し合う場面を生かすために座席表を使ってチェック。</p> <p>④ 机間指導でつまずきを見取り、支援。</p> <p>⑤ 学習のねらいに即して学習形態を工夫。</p> <p>* 班活動をさせる場合</p> <p>・ 5W1Hを活動前にはっきり指示。</p> <p>・ 最後は個に返し無理に班で意見をまとめない。</p> <p>⑤ 判断基準の提示。</p> <p>⑤ 図式化・簡潔化等の比べやすい板書の工夫。</p> <p>⑤ 発表での述べ方指導。</p> <p>* 接続詞の使い方（頭括型）。</p> <p>* 用語の使用推奨。</p>		<p>・子ども言葉を生かしつつ、適切なことばでまとめる。</p> <p>・ノート指導（枠・色・定規・位置）見開き1ページ</p> <p>・TTやAT等の活用</p> <p>・B6版の白紙を用意して出題</p> <p>・問題数の目安は2問以内</p> <p>・ふり返り用紙は「関心・意欲・態度」の評価に生かす</p> <p>・終わった場合の事前指示（三二先生・宿題の指示等）</p>	
終末		<p>⑥ 課題のことに応じたまとめを板書する</p> <p>⑦ 確認テストで習得したかを見取る</p>		<p>⑥ まとめの板書（プレート・枠・色・位置）。</p> <p>⑥ ポイントやキーワードを必要に応じて板書</p> <p>⑥ 時間不足でも、そこまでのまとめをする。</p> <p>⑦ 採点時間までの余裕をもつ。</p> <p>⑦ 全員が習得すべき内容を出題。</p> <p>⑦ 説明などの記述問題も内容に応じて取り入れる。</p> <p>⑦ ふり返り用紙とはねらいが異なる。主に「知識・理解」の評価に生かす。</p>		<p>・当日課題の1問は予習を兼ねた次時の予告問題にする</p> <p>・全教科の総量を考慮</p> <p>・単元のどこでつまずいたかを点検・指導</p> <p>・朝学習・下校前等の個別指導</p>	
事後		<p>⑧ 課題のことに応じたまとめを板書する</p> <p>⑨ 確認テストで習得したかを見取る</p>		<p>⑧ 反復により定着させる。</p> <p>⑧ 当日課題（宿題）</p> <p>⑧ 授業内容から出題</p> <p>⑧ 週末課題（宿題）</p> <p>⑧ 活用問題も出題</p> <p>⑧ 単元末課題（宿題）</p> <p>⑧ 基礎から応用へ。</p> <p>⑧ 点検・指導を粘り強く続ける。</p> <p>⑧ 補充指導の実施。</p> <p>⑧ 学力向上支援システムの利用。</p>		<p>・宿題指導を継続徹底</p>	

# 津久見市版 算数・数学授業モデルの実践

基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざして

過程	内容	算数 単元「わり算(1)」 題目「 $42 \div 3$ 」の計算の仕方はどうすればいいか	数学 単元「式の計算」 題目「式の計算の利用」
調査 目標 つかむ	1. つけるべき力の確認 2. 学習者の実態把握 3. 指導目標の確定	1. 領域：学習指導要領より 「算数的活動」「目標A(1)」「内容A(3)」「内容の取り扱いA(4)」 学年間の系統：指導書より「内容の関連」「内容の概観」 学習内容の系統：教科書より「わり算(1)」 2. 単元前：レディネスによる未定着部分の把握←「指導書 朱書編・研究編」(大阪書籍) 授業前：本時の課題に対する児童の考え方←ノート点検より →座席表に記録 3. 割る数が1位数のわり算を、上の位から掛け算・九九を使って繰り返し割っていく方法に目を向けてとらえ、筆算で素早く計算できる	1. 学習指導要領解説より「数学的活動」「表現する能力」 2. G.W課題・中間テストによる自己評価 誤答分析 →指導目標に到達する より効果的な展開を構想 ・課題設定 ・学習活動 ・学習形態 ・習熟度別 学びの記録による誤答の言語化から実態分析 3. 数の性質を式の展開や因数分解を活用して証明できる
導入 であう	1. 本時の学習内容・めあてを理解させる 2. 本時の主眼に迫る課題(主発問)	○ 「であう」「つかむ」の段階を前時に行い、「出し合う」からスタート =前時問題「 $42 \div 3$ 」の計算を提示し、考え方をノートに記述させている 1. 提示 モノ：折り紙を束にして提示 2. 課題 「 $42 \div 3$ の計算の仕方は、どうすればいいかな」 ・赤チョークの線枠、左上と常に決まった書き方・位置で板書	○ 素材 「であう」数の規則性の不思議=意欲化 「 $3^2 - 2^2 = 5$ $4^2 - 3^2 = 7$ からあるきまりを見つけよう」 1. 提示 「規則性を学会で発表したいので、表現する」という場面設定 2. 課題 「発見したきまりを学会で発表するため数学的に表現しよう」 ・数の規則性を、数式とことばによって表現させる
展開 1. 見通す 2. 解決する 3. 出し合う	1. どうやって考えればいいのか見通しを立てさせる 2. 自分の力で考えさせる 3. 考えたことを発表させ、違いやよさを話し合わせる	1. 見通す 家庭で各自考えてくる 2. 解決する ノートに複数の考え方を書いてくる 3. 出し合う (1) 出し合う工夫 = 意図的な発表順序 ① 予めノート点検により個々の考え方を把握し、意図的な順序で発表 ② 黒板で操作活動を行わせながら説明させる (2) 検討 一人一人に折り紙を配り操作活動を行わせ、複数の方法を試させ比較させて、最も効率的な方法に気づかせる	1. 見通す 基本コース には、T2や支援教員による支援、帰納法の考え方の助言 2. 解決する 個別にノートに記入 ←机間指導により内容確認・助言 3. 出し合う (1) 出し合う工夫 = 意図的な発表順序 ① 日常語文-②部分的な数学术語の使用文-③正確な数学术語の使用文 (2) 検討 $n, n+1$ による証明 ・ワークシート ①文字で表す ②言葉 ③結論)により、証明の構造を把握させる ・基本コース は、①具体数-②言葉の式-③穴埋め-④証明のスマールステップ
終末 まとめる	○課題のことばに応じたまとめを板書する	○ まとめ 「10の束が三つと、残り12枚に分けて考えればいい」 ・赤チョークの線枠、きまった書き方・位置で板書 * 発展：操作活動と筆算の手順の結びつきの理解	○ まとめ 「連続した2つの整数の2乗の差は、その2数の和に等しい。」 * 類似問題 「連続する3つの整数で、真ん中の数の2乗から、大きい数と小さい数の積を引くと□になる」
見取る	○確認テストで習得したかを見取る	★ 確認テスト「 $94 \div 2$ 」(筆算で行う) →回収・点検 事後指導に生かす ★ 学びの記録：確認テストのファイル化 →次時に生かす	★ 確認テスト：習熟度別内容 →回収・点検 事後指導に生かす ★ 学びの記録：生徒の振り返り：確認テストのファイル化 →次時に生かす
定着 徹底	○宿題指導を継続徹底	★ 教科書の類似問題による宿題 ★ 宿題提出の徹底 →家庭学習の習慣化 (提出指導の徹底後、未提出者がほぼなくなった)	★ 週末課題：習熟度別(個人選択) ★ 補充学習 【点検により見えてきたもの】 ①どこを間違える傾向が多いか = 課題の発見 ②反復練習による課題の解消 ①個人指導の常時化(確認テストの事後指導) ②質問タイムの設置(テスト前は30名以上が参加) ③宿題未提出者指導の徹底

# 「うさっ子」家庭教育のすすめ

宇佐市教育  
委員会

## テレビに負けない

教育の原点は「家庭」にあります。子どもの教育は家庭から始まり、家族との温かい関わりや体験を通して多くのことを学び、たくましく成長します。

ところが最近、「うさっ子はテレビを見る時間が県や全国の子どもたちより長い」「朝からあくびをしている子が多い」など、子どもたちの様々な課題が指摘され、家庭の学習面でも「学ぶ習慣は身に付いているのか?」「学習時間は確保できているか?」などと、問われています。

この「家庭教育のすすめ」は、各家庭で協力して取り組んでいただきたい生活習慣の大切なことを集めています。

保護者の皆様にご趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いし、子どもたちの家庭教育がさらに充実するように、ご活用いただければ幸いです。

### 「当たり前」のことが「当たり前」にできる

皆さんの家で、学校で、地域でこんな「うさっ子」に育てましょう!

- ・あいさつをする
- ・人の話を聞く
- ・正しい言葉遣いをする
- ・時間を守る
- ・くつをそろえる
- ・そうじをする など

## 家庭教育の つぼ! 5か条



1

### テレビやゲームは時間を決めて!

テレビやゲームに夢中になって、だらだらと時間が長くなることがあります。家族の協力も大切です。

2

### 子どもにも家事を!

家庭で、子どもにできる仕事をさせてください。家族の一員としての自覚が育ち、学習に必要な持続力・集中力が育ちます。

3

### 勉強時間を決めて!

その日の予定を立て、見通しを持って学習させましょう。必ず学習する時間帯を設定させましょう。

4

### 最後までやり終える!

「宿題は最後までやること」を守らせましょう。おうちの方も励まして、見てあげて、一緒に根比べです。

5

### あいさつや会話を大切に!

「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」のあいさつはもちろん、将来の夢や進路を楽しく話し合いましょう。



# 「うさっ子」かていがくしゅうのすすめ

宇佐市教育委員会

## かていがくしゅうは、なぜするのでしょうか？

小低学年

- ①しょうらいの「ゆめ」をかなえるため
- ②学校でべんきょうしたことをしっかり「み」につけるため
- ③コツコツとがんばる「こころ」をそだてるため など



## かていがくしゅうのまえにたいせつなことは？

- ①はやね・はやおきをする
- ②テレビ・ゲームの時間やべんきょうをする時間をきめる
- ③つくえの上やふでばの中をきれいにする
- ④「おはよう」「行ってきます」「ただいま」のあいさつをする
- ⑤てつたいをすすんでする

## かていがくしゅうのポイントとは？

- ①しゅくだいはかならずやりとげる
- ②テレビを見ながらべんきょうはしない
- ③あすのじゅんぴをする



しゅくだいのほかにどんなものを、どのように、どのくらいべんきょうするとよいかは学校の先生におしえてもらってください。  
さあ、できるところからつづけてがんばってみましょう。

# 「うさっ子」家庭学習のすすめ

宇佐市教育委員会

## 家庭学習はなぜするのでしょうか？

中学生

- ①将来の夢をかなえるため
- ②学校で勉強したことをしっかり身につけるため
- ③コツコツとがんばる心を育てるため など



## 家庭学習の前に大切なことは？

- ①早寝・早起きをする
- ②テレビ・ゲームの時間や勉強をする時間を決める
- ③机の上や筆箱の中をきれいにする
- ④「おはよう」「行ってきます」「ただいま」のあいさつをする
- ⑤手伝いを進んでする

## 家庭学習のポイントは？

- ①宿題は必ずやりとげる
- ②テレビを見ながら勉強はしない
- ③苦手な教科の予習をする



宿題のほかに予習や復習はどんなものを、どのように、どのくらい勉強するとよいかは、学校の先生に教えてもらってください。  
さあ、できるところから続けてがんばってみましょう。

# 豊後高田市教育ビジョンの策定にあたって 現在・過去・未来へ



豊後高田市は、市基本構想の将来都市像「千年のロマンと自然が奏でる交遊と文化のまち」に向け、教育分野では、「郷土を愛し、地域を支える担い手づくり」を目標に教育のまちづくりを推進しています。教育委員会では、地方からの教育創造として平成14年度から「学びの21世紀塾」を開設するなど「昭和の町は教育のまちです」事業を軸に地域に根ざした教育に着手し、確かな歩みを進めているところです。

この取り組みを踏まえ、この度、教育委員会は、教育ビジョンを策定しました。このビジョンは、児童・生徒が自分たちのまに誇りがもて、将来への夢が掛け、実現のための道筋が見え、未来につながることをめざしたものです。この構想の基盤には、地域や保護者の方々の子どもたちへの温かいご支援、ご協力、地域力があることであり、その力は、豊後高田市の財産として、これからもより充実させていかねばならないと考えております。

今後、教育委員会は、この豊後高田市教育ビジョンに基づいて着実に教育行政を推進し、「キラリとひかる子ども」を育ててまいります。

どうかこれからも市民の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

豊後高田市教育委員会 教育長 河野 潔

## 温故知新 教育の礎を築いた先人の教え

**戴星堂** 全国でも屈指の古さを誇っている私塾・寺子屋  
(現在の豊後高田市一畑)

- 室町時代末から明治初期
- 読書、算術、習字、人の道などを教える



戴星堂模型図

**涵養会** 各界の逸材を輩出した私塾・寺子屋(現在の豊後高田市草池)

- 江戸時代後期から明治中期
- 開設者 曾海 重谷 先生
- 漢学(聖賢・人倫の道)、詩学、書道などを教える

**稻古庵** 算術の教えを説いた寺子屋(現在の豊後高田市夷)

- 江戸時代前期から中期
- 開設者 「蘭語訳」の吉田 光由 先生
- 算術の基礎と実用、人の器めなどを教える

## 豊後高田市の教育の特色

- 特色1 「学びの21世紀塾」「昭和の町は教育のまちです」事業 実践記録集の編纂
- 特色2 学校・家庭・地域ネットワーク 学校支援地域本部
- 特色3 学力向上、体力向上、豊かな心 独自の基礎基本定着状況調査 教師の資質向上・授業力向上



「昭和の町は教育のまちです」事業 実践記録集

# 「キラリと光るまち」の場づくり

## 今に生きる寺子屋の教え

室町時代「戴星堂」から始まった豊後高田市の寺子屋の教育。地域の人々が、地域の子どもたちのために勉強を教える。その精神は、今この平成の時代に脈々と受け継がれています。

## 昭和時代のよさを生かした教育の再生 →「昭和の町は教育のまちです」事業→

- 昭和30年時代の活気と隣近所や地域の人々とのふれあいにあふれた、その時代の良さを生かそうとする取り組みです。
- 地域の教育力や関わり合いに支えられた学校づくりのもと、子どもたちを育むことをめざしています。
- 「昭和の町は教育のまちです」事業は、「学びの21世紀塾」を軸に展開しています。

## 学びの21世紀塾の取り組み

- 豊後高田市の子どもたちに、確かな学力の定着や体づくりの機会を提供することを目指して始まった事業です。
- この事業は、地域の人々のボランティアを中心として運営されています。教職員も積極的なかかわりで、地域での教育活動に協力しています。

## 保護者・地域住民との連携

- 学校支援地域本部 (教育支援センター) (コミュニティスクール)
- 地域代表との懇談会
- 「にっこにこあいさつ運動」推進

## 「学びの二十一世紀塾」

- いきいき土曜日講座
- わくわく体験活動
- のびのび放課後活動
- 水曜日講座 (小中学生放課後補充学習)
- テレビ寺子屋講座 (ケーブルテレビを活用した教育番組)
- 寺子屋昭和館 (小学生放課後補充学習)

## 教職員の意識改革

- 年間通した授業公開
- 市独自学力調査 実態把握と対策
- 市特別研修及び選流 (先進地視察報告会の開催)
- 幼保小中高間の連携活動授業

## 「学校地域支援本部」の取り組み

- 学校・家庭・地域が一体となって子どもたちのより良い教育をめざして地域ぐるみで子どもを育てることを目指して始まった事業です。
- ボランティアの方は、自発的に「子どもたちの教育に役立ちたい」「子どもの笑顔が元気のもと」と協力してくれています。
- 市内の組織 学校支援地域本部事業実行委員会 中学校区ごと6地区



# 「キラリとひかる子ども」実現のための学校・家庭・地域ネットワーク

## 学校

- ★子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成し、生きる力をもった子どもを育てます。
- ★教職員の意識改革・指導力向上をはかり、意欲的に学ぶ子どもを育てます。
- ★家庭と協力して生活習慣の確立をめざします。
  - 特色ある学校づくりの充実  
学力向上の取り組み 体力向上の取り組み  
家庭学習の定着
  - 教職員の意識改革・指導力向上  
授業力向上研修の充実  
教職員評価システムの活用



## 家庭

- ★生きる実感・愛されている実感をもたせ、家族を愛する子どもを育てます。
- ★食を大切にされた基本的な生活習慣の確立など、生きる力の基盤を育てます。
- ★毎月の学校公開日、PTA行事に積極的に参加します。
  - 学校PTAの活動
    - \*あいさつ運動の推進
    - \*通学路の交通安全
    - \*メディア教育の研修
  - 市、県PTA連合会との「協働」
  - \*市P連研究大会

## 確かな学力

- 疑問や課題をもって主体的に学びます**
- 基礎基本の学力を身につけ、学んだことを活用します。
  - 将来につながる自立の力を身につけます。

## 豊かな心

- コミュニケーションを積極的にすすめます**
- じっくり聴き、豊かな表現で伝え合います。
  - 思いやりの心、感謝の心をもって行動します。

小さくともキラリと光るまち 豊後高田市  
**めざす子ども像**

- 学ぶ って楽しい
- つながる ってうれしい
- 生きる ってすばらしい

教育のまち

## 健やかな体

- 目標や希望をもって生活をします**
- 自他の生命や体を守り、基礎的な体力を身につけ運動を楽しみます。
  - 健やかな生活の基盤となる基本的な生活習慣を身につけます。

## キラリと光るまち

- 地域の学びの場で積極的に学びます**
- 支えてくれる人々に感謝し、ふれあい、学びます。
  - 地域の人々、異なる世代の人々などとの交流をすすめます。



## 行政

- ★教育の質を高める教育施策を推進し、学校・家庭・地域と連携し、子どもの育成をバックアップします。
- ★「昭和の町は教育のまちです」事業の充実をはかります。
  - 「学びの姿」の構築をめざす「学びの21世紀塾」の推進
  - 組織的な学校支援体制の構築をめざす学校支援地域本部事業
  - 通学区の弾力的運用



## 地域

- ★地域の人々とともに暮らしている実感をもたせ、地域を大切に子どもを育てます。
- ★地域・学校行事やボランティア活動に積極的に参加します。
  - 「学びの21世紀塾」の支援
  - 「学校支援地域本部」「地域人材活用」の支援
  - 青少年健全育成市民会議との協働

「小さくともキラリと光るまち」豊後高田市のめざす子ども像として、「学ぶ」って楽しい、「つながる」ってうれしい、「生きる」ってすばらしい というスローガンを掲げました。子どもたちみんなが合言葉にしてイメージをふくらませ、夢の実現に向かって生き生きとした毎日を送ってくれることをめざして設定しました。この子ども像実現に向け、子どもを取りまく学校・家庭・地域・行政が役割を担いネットワークを組み、達成するための目標と方針を示しました。このうち、家庭と地域の方針につきましては、行政が支援を行い、ともに子どもを大きく育てていこうとするものです。